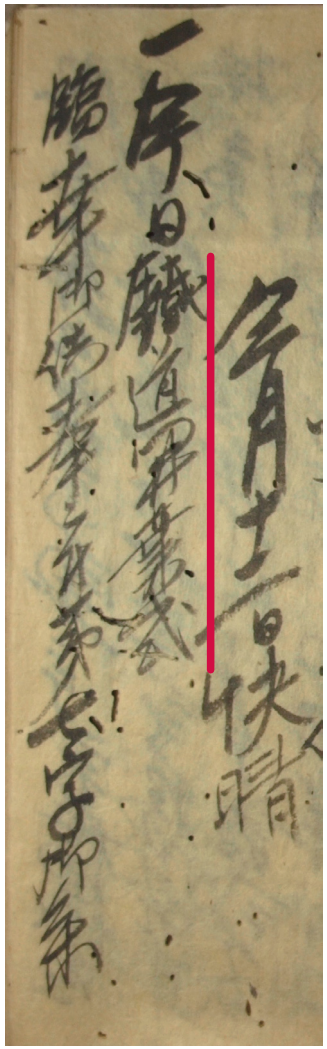
鉄道の開通



＊毛利家文庫5忠愛公113「元徳公時代日記　四」

「同月十二日　快晴
一　今日，鉄道開業式（以下略）」

解　説

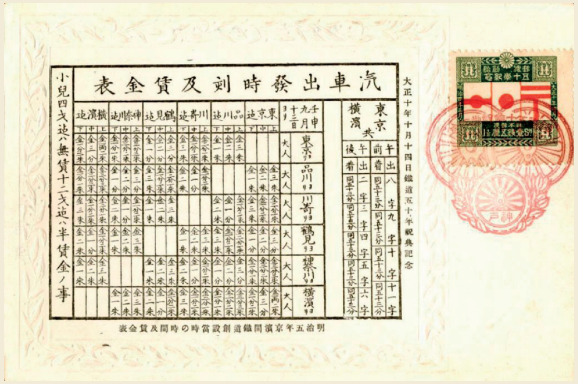
明治政府は殖産興業を進めるために，経済の発展に欠かせない交通の整備に力を入れ，1872（明治5）年9月12日，新橋・横浜間の鉄道営業を開始しました。

長州の旧藩主毛利元徳夫妻の日々の動静を記した日誌には，鉄道開業式へ参列した様子が詳しく書かれています。

当初，開業式は重陽の節句に合わせて9月9日の予定でした。9月4日に宮内省式部寮から参列時の服装についての指示があり，「直垂着用，帯剣」と和装での参列が命じられましたが，大雨のため12 日へ延期するとの連絡が8日の晩にありました。

開業式当日，この日は快晴で，元徳は朝7時に参内。9時に天皇に随い馬車で新橋駅へ行き，10時発の汽車で横浜へ。横浜で開業式が行われた後，午後1時に新橋に戻り，新橋でも式典が行われています。この日は一般の人々にも駅や延遼館（当時の迎賓館）などの観覧が許されました。

元徳は午後3時30分にいったん帰宅しましたが，5時に再び新橋駅の見物に出かけています。



＊写真上は1921（大正10）年に鉄道開業50周年を記念して作成された絵はがきで，開業当時の汽車の時刻表と運賃が紹介されています。東京（新橋）と横浜を53分で結び，上等が金1両2朱，中等が金3分，下等が金1分2朱でした（佐倉谷家文書95）。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る